

# 鳥取神青通信

第15号

発行元  
鳥取県神道青年会  
編集  
西部青年神職会

奉祝 天皇陛下御即位二十年

## 合同研修会に向けて

鳥取県神道青年会  
会長 池本 靖



平成二十年度も幕開けし、会員の皆様にかかれましては、多忙の中、日々の神明奉仕にご活躍の事とお慶び申し上げます。

去る四月二十四日、神社本庁において神道青年全国協議会第六十回定例総会が開催され、出席して参りました。神青協通信にも掲げられておりますが、次の通りの総会決議が打ち出されました。

集し、混迷する世情を打破すべく積極果敢なる運動に進ずることを期する。

右、決議する。

この総会決議には、今我々の進むべき方向が示されているものと感銘を受け、あえてこの場に記載いたしました。

本会においても、今年度は氏青神青合同研修会の主管県となっております。実行委員会の確立に続き、内容、骨組みの組立てが急がれる所です。又、遷宮啓発委員を各県一名設置することが決まり、全国的な啓発活動も盛んになって来る事と思われまます。

ここに全会員の叡智を集し、いづれの事業も成功に終える事を祈念し、皆様の惜しみない御協力をお願い申し上げます。

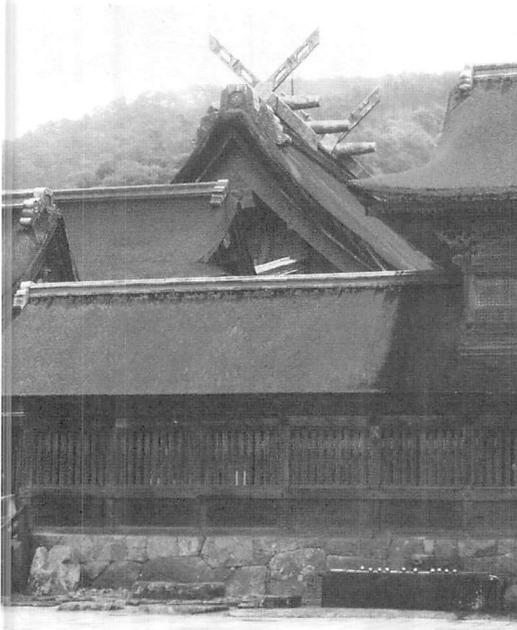
## 第四十回 中国地区氏子青年・神道青年合同研修会

去る、平成二十年六月二十一日・二十二日の両日、悠久神話の里・鳥根県出雲市にて、第四十一回中国地区氏子青年・神道青年合同研修会が賑々しく開催されました。この研修会は、各

氏神様を下支えする活力溢れる氏子の青年者及び青年神職達が集い、共に膝を交え神道への理解見識を深め、

神社を取り巻く諸問題について活発な議論を行なう有意義な研修会として毎年開催されております。

さて、本年研修会は「御遷宮に学ぶ」として、来る平成二十五年にむかえます二十年に一度の「伊勢神宮式年遷宮」及び六十年に一度とされる「出雲大社の平成大遷宮」をひかえ、日本



「平成大遷宮」をひかえる出雲大社

全国津々浦々でその奉賛事業が愈々盛んに推進されており、ますます最中、両遷宮また広くあまたのお社で幾度となく果たされてきた「遷座」について、祭儀や建築を学び、そこに込められた神まつりのこのころと私たちの深く探究する機会となりました。

また、本研修会には牟禮仁先生（皇學館大学教授・演題「遷宮とは何か」）、黒田龍二先生（神戸大学准教授・演題「建築史学からみた神宮と出雲大社」）両講師をお迎えして、より多角的に「遷宮・遷座」を分かりやすく解説分析いただきました。

なお、卓上の研修のみならず出雲大社正式参拝の折には、特別に現在御造営中の社殿、殊に大社造の国宝御本殿にてその「天下無双の大廈」の御姿に圧倒され、さらに殿内鏡天井に描かれる「八雲」は永年を感じさせない悠久よりそのままの、その麗しい姿に魅了されました。

先人たちの篤い崇敬の念

とご祭神への感謝と祈りを込めた「御遷宮」は、まごころを次代へとつなぎ、大無辺の御神威を知る、まさに次世代を担うべく青年氏子・青年神職達には深く思いを馳せる格好の機会として、さらに結束をあらたに神社界はもとより、世のため人のために神明奉仕の誠をささげてゆくべく、実践しようと考えさせられる研修会となりました。

大澤祥之



研修修了後に記念撮影

### 各単位の活動

#### 東部 若葦会

若葦会では、八月九・十日に恒例の夏期研修会を鳥取市福部町の服部神社にて九名の参加者で実施しました。

初日の午後一時に開校式を行い、引き続き横山利宮司に福部町周辺の神社や歴史について、会員に資料を渡し説明していただきました。その後二台の車に分乗し、古墳跡に立ち寄り説明を受け、山の中腹にある坂谷神社に参拝しました。地元のケーブルテレビや新聞にも取り上げられましたが、迎りに巨大な岩がいくつもあり、霊験あらたかな雰囲気に包まれました。神社の横の大きな岩には現在解説されていますが、文意不明な多数の文字（坂谷石窟古字）が刻まれています。

次に服部神社に戻り、総

海士（あもこ）公民館に於いて



代長の方と意見交換会を行いました。昨年は犯罪、事件等が多発する時世となり青年神職には、現状を改善すべく熱意を持って地域での神社活動に取り組んで欲しいとの激励の言葉をいただきました。意識の向上を心掛けたところです。

二日目には、宿泊した公民館で六時半より、聖神社の松田直也禰宜に心身を清め自己の魂を振り起こし、調和を図るため禊ぎの指導を受け、さらに午前中は暑い中、因幡相伝楽の稽古を熱心に行いました。

まとめとして、研修会は

日頃接することのない先輩神職、総代さんらと関わり学べる貴重な時間、場所であると思います。そういった前向きな認識を持ち継続的に参加し、自身の成長と神社界での将来の活躍のためにもぜひ役立てて欲しいと思いました。

#### 中部 青年神職会

中部青年神職会は、四月二十日、社会福祉法人立石会ケアハウスみどり園において、健康長寿祈願祭を齎行いたしました。毎年この時期にみどり園で行っており、今年で五年目を迎え、恒例行事となってきました。準備の際にケアハウスの職員さんとお話する時間があり、「様々な行事を開催しますが、この健康長寿祈願祭の参加者が一番多いです。」と教えていただき、皆さんが楽しみに待って下さっていることを改めて感じました。

櫃田会長の挨拶の後、心

を込めて厳肅に祈願祭を斎行し、入居者の皆様の健康と長寿を祈願いたしました。今年には神楽『初座散供舞』を初めて奉納し、例年とは違った舞に参列者の皆さんも見入っておられました。この日は祈願祭の他に神道青年全国協議会六十周年記念事業である伊勢神宮奉納絵馬の事業説明も行い、教化活動を行うこともできました。

毎年この事業の際には、少ない人数で神楽などできないところを補い合いながら所役をこなしておりますが、誰がどの所役、神楽になっても祭りが斎行できる神職会になるよう益々研鑽を重ねていきたいと思えます。



献饌

初座散供舞奉納



### 西部青年神職会

西部青年神職会は二年に一度、近県(日帰り可能の地域を目安とした)の史跡巡り事業を行っています。平成十九年度はその年に当たり、去る十一月十八日(日)

に石見の国一の宮「物部神社」参拝(世界文化遺産「石見銀山」を見学してきました。会員とその家族、また氏子の方々を中心に総勢四十名と大型バス一台がほぼ満席と多数の皆様にご参加頂き出発しました。二時間少々

で鳥根県大田市に鎮座する物部神社に到着し正式参拝、引き続き本殿において、鳥根県斐川町ご出身の笛作家・樋野達夫氏による笛の奉納演奏を行っていただきました。ご自分で製作された石製の笛など様々な笛のすばらしい音色が境内にまで響き渡り、また参拝者一同の心にも強く染み入る演奏でした。

樋野達夫氏



物部神社の中田宮司様におかれては、時節柄ちょうど紐落としての時期でもあり、社務多忙の折にもかかわらず約一時間にも渡る貴重な時間を我々の為に費やして頂き誠に頭の下がる思いです。午後からはいよいよ石見山観光です。世界遺産登録

史跡めぐり・物部神社に於いて

直後ということでは我々の想像以上に大勢の人で賑わっていました。ここでは各々で観光・散策・ショッピングを楽しみました。時間の都合上、慌ただしい行程となりましたが、この度の史跡巡りも無事終わることが出来何よりです。次回の企画も楽しみにしています。



史跡めぐり・物部神社に於いて

### 新入会員紹介

氏名 小澤慎二郎  
住所 鳥取市面影  
奉務神社 熊野神社



### ◎よりよい神社活動を...

私は、平成十九年に山口県神社庁にて一ヶ月の研修を経て、直階の階位を取得しました。家族構成は、妻と三歳の男児です。趣味は音楽鑑賞、映画鑑賞とスキーです。将来の目標は、敬神生活を通して神職と氏子、人と人との信頼関係を築いていき、よりよい神社活動をしていきたいと思っています。そして、地元の氏子さんに親しまれる神職になりたいと思っていますので、先輩の皆さんのご指導よろしくお願いたします。

新入会員紹介

氏名 池田智子  
住所 鳥取市気高町下坂本  
奉務神社 志加奴神社



◎神職として

「私は神職になるんだ」という強い使命感に駆られて早五年。弱輩ながらも神職と名乗れるようになりました。幼い頃から神社が身近にありましたので、神社の雰囲気や慣習に触れると懐かしい気持ちになると同時に、日本人に生まれてこられた喜びを感じます。

正座は凄く苦手ですが、新しい「一社の故実」を作らないよう、祭式の厳修に努めていきたいと思えます。まだまだ不勉強な身ですので、皆様のご指導宜しくお願致します。

氏名 古賀雅人  
住所 鳥取市西町  
奉務神社 稲荷神社



◎目標と理想

私は、鳥取西高を卒業後、資格を取り皆さんの一員になりました。家族構成は父、母、兄、姉で、趣味は音楽鑑賞、映画鑑賞、ランニングです。

将来の目標としては、氏子崇敬者の皆様が気軽に立ち寄れる様な神社の環境づくりを目指したいと思っています。理想像は祭式、太鼓(因幡相伝楽)ができ、一人で祭典をご奉仕できる様になりたいと思っていますので、先輩の皆さんの御指導よろしくお願いたします。

氏名 田中洋子  
住所 鳥取市佐治町余戸  
奉務神社 金山神社



◎親しまれる神職に：

私は、名古屋市の熱田神宮学院を卒業して、神職として第一歩を歩み始めました。家族構成は、両親と祖父祖母です。

理想像は、五年後、十年後に友人の子どもの初宮参りや七五三を、氏神様にご奉告できればいいと思っています。また、地元の氏子さんに親しみ、親しまれる神職を目指したいと思えます。これからも研修会に参加していきたい、研鑽を積んでいきたいと考えていますので、先輩の皆さんのご指導よろしくお願いたします。

氏名 蘆立信一郎  
住所 西伯郡伯耆町宮原  
奉務神社 樂樂福神社



◎古儀の再興と継続

残っている文献によると、戦後、本務社のお祭りに参加する氏子数は激減し、年中行事の数も少なくなりました。十一年程前には、一家総出でお参りに来て頂いていた茅の輪くぐりにも呼びかけの必要性を感じていました。ところが、

今夏のお祭りでは多くの方々の協力を仰ぎ、凡そ百年振りに神輿を出す事が叶いました。村一丸となつて例年に無い盛況を得られ、嬉しく思っております。これだけ安堵せず、古儀の再興と継続、護持に尽力したいと思います。

編集後記

今号では新入会員の紹介欄がどっと増えました。東部若葦さんは四名も入会されたのですね。うれしい限りです。私も先般、遅ればせながら初任神職研修会に参加してまいりました。二週に渡り計四日間、座学を中心に朝から夜まで、時に襲ってくる激しい睡魔と戦いながら、それに打ち勝ち無事修了することが出来ました。改めて神職としての心得を学び良い研修会でした。

研修会といえは、はじめに池本会長のあいさつの中にもあった通り、中国地区氏青・神青合同研修会、来年はいよいよ鳥取県が主管県です。役員会において、来年6月頃、鳥取市を会場として開催することが決定しております。会員の皆様方には御協力の程宜しくお願ひ申し上げます。

(来海)